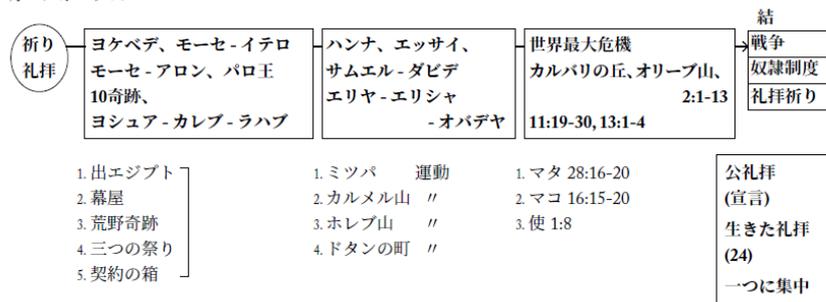


21.9.18 伝道学

御座の超越を味わう伝道

序-フォーラム



出エジプト 12:1-46

- 01 主は、エジプトの国でモーセとアロンに仰せられた。
- 02 「この月をあなたがたの月の始まりとし、これをあなたがたの年の最初の月とせよ。
- 03 イスラエルの全会衆に告げて言え。この月の十日に、おのおのその父祖の家ごとに、羊一頭を、すなわち、家族ごとに羊一頭を用意しなさい。
- 04 もし家族が羊一頭の分より少ないなら、その人はその家のすぐ隣の人と、人数に応じて一頭を取り、めいめいが食べる分量に応じて、その羊を分けなければならない。
- 05 あなたがたの羊は傷のない一歳の雄でなければならない。それを子羊かやぎのうちから取らなければならない。
- 06 あなたがたはこの月の十四日までそれをよく見守る。そしてイスラエルの民の全集会が集まって、夕暮れにそれをほふり、
- 07 その血を取り、羊を食べる家々の二本の門柱と、かもいに、それをつける。
- 08 その夜、その肉を食べる。すなわち、それを火に焼いて、種を入れないパンと苦菜を添えて食べなければならない。
- 09 それを、生のままで、または、水で煮て食べてはならない。その頭も足も内臓も火で焼かなければならない。
- 10 それを朝まで残してはならない。朝まで残ったものは、火で焼かなければならない。
- 11 あなたがたは、このようにしてそれを食べなければならない。腰の帯を引き締め、足に、くつをはき、手に杖を持ち、急いで食べなさい。これは主への過越のいけにえである。
- 12 その夜、わたしはエジプトの地を巡り、人をはじめ、家畜に至るまで、エジプトの地のすべての初子を打ち、また、エジプトのすべての神々にさばきを下そう。わたしは主である。
- 13 あなたがたのいる家々の血は、あなたがたのためにしるしとなる。わたしはその血を見て、あなたがたの所を通り越そう。わたしがエジプトの地を打つとき、あなたがたには滅びのわざわいは起こらない。
- 14 この日は、あなたがたにとって記念すべき日となる。あなたがたはこれを主への祭りとして祝い、代々守るべき永遠のおきてとしてこれを祝わなければならない。
- 15 あなたがたは七日間種を入れないパンを食べなければならない。その第一日目に、あなたがたの家から確かにパン種を取り除かなければならない。第一日から第七日までの間に種を入れたパンを食べる者は、だれでもイスラエルから断ち切られるからである。
- 16 また第一日に聖なる会合を開き、第七日にも聖なる会合を開かなければならない。この期間中、どんな仕事もしてはならない。ただし、みなを食べなければならないものだけは作ることができる。
- 17 あなたがたは種を入れないパンの祭りを守りなさい。それは、ちょうどこの日に、わたしがあなたがたの集団をエジプトの地から連れ出すからである。あなたがたは永遠のおきてとして代々にわたって、この日を守りなさい。
- 18 最初の月の十四日の夕方から、その月の二十一日の夕方まで、種を入れないパンを食べなければならない。
- 19 七日間はあなたがたの家にパン種があってはならない。だれでもパン種の入ったものを食べる者は、在留異国人で

も、この国に生まれた者でも、その者はイスラエルの会衆から断ち切られるからである。

20 あなたがたはパン種の入ったものは何も食べてはならない。あなたがたが住む所ではどこでも、種を入れないパンを食べなければならない。」

21 そこで、モーセはイスラエルの長老たちをみな呼び寄せて言った。「あなたがたの家族のために羊を、ためらうことなく、取り、過越のいけにえとしてほふりなさい。」

22 ヒソプの一束を取って、鉢の中の血に浸し、その鉢の中の血をかもいと二本の門柱につけなさい。朝まで、だれも家の戸口から外に出るはならない。

23 主がエジプトを打つために行き巡られ、かもいと二本の門柱にある血をご覧になれば、主はその戸口を過ぎ越され、滅ぼす者があなたがたの家に入って、打つことがないようにされる。

24 あなたがたはこのことを、あなたとあなたの子孫のためのおきてとして、永遠に守りなさい。

25 また、主が約束どおりに与えてくださる地に入るとき、あなたがたはこの儀式を守りなさい。

26 あなたがたの子どもたちが『この儀式はどういう意味ですか』と言ったとき、

27 あなたがたはこう答えなさい。『それは主への過越のいけにえだ。主がエジプトを打ったとき、主はエジプトにいたイスラエル人の家を過ぎ越され、私たちの家々を救ってくださったのだ。』すると民はひざまずいて、礼拝した。

28 こうしてイスラエル人は行って、行なった。主がモーセとアロンに命じられたとおりに行なった。

29 真夜中になって、主はエジプトの地のすべての初子を、王座に着くパロの初子から、地下牢にいる捕虜の初子に至るまで、また、すべての家畜の初子をも打たれた。

30 それで、その夜、パロやその家臣および全エジプトが起き上がった。そして、エジプトには激しい泣き叫びが起こった。それは死人のない家があったからである。

31 パロはその夜、モーセとアロンを呼び寄せて言った。「おまえたちもイスラエル人も立ち上がって、私の民の中から出て行け。おまえたちが言うとおりに、行って、主に仕えよ。」

32 おまえたちの言うとおりに、羊の群れも牛の群れも連れて出て行け。そして私のためにも祝福を祈れ。」

33 エジプトは、民をせきたてて、強制的にその国から追い出した。人々が、「われわれもみな死んでしまう」と言ったからである。

34 それで民は練り粉をまだパン種を入れないままで取り、こね鉢を着物に包み、肩にかついだ。

35 イスラエル人はモーセのことばどおりに行ない、エジプトから銀の飾り、金の飾り、それに着物を求めた。

36 主はエジプトがこの民に好意を持つようにされたので、エジプトは彼らの願いを聞き入れた。こうして、彼らはエジプトからはぎ取った。

37 イスラエル人はラメセスから、スコテに向かって旅立った。幼子を除いて、徒歩の壮年の男子は約六十万人。

38 さらに、多くの入り混じって来た外国人と、羊や牛などの非常に多くの家畜も、彼らとともに上った。

39 彼らはエジプトから携えて来た練り粉を焼いて、パン種の入れてないパン菓子を作った。それには、パン種が入っていなかった。というのは、彼らは、エジプトを追い出され、ぐずぐずしてはおられず、また食料の準備もできなかったからである。

40 イスラエル人がエジプトに滞在していた期間は四百三十年であった。

41 四百三十年が終わったとき、ちょうどその日に、主の全集団はエジプトの国を出た。

42 この夜、主は彼らをエジプトの国から連れ出すために、寝ずの番をされた。この夜こそ、イスラエル人はすべて、代々にわたり、主のために寝ずの番をするのである。

43 主はモーセとアロンに仰せられた。「過越のいけにえに関するおきては次のとおりである。外国人はだれもこれを食べてはならない。

44 しかし、だれでも金で買われた奴隷は、あなたが割礼を施せば、これを食べることができる。

45 居留者と雇い人は、これを食べてはならない。

46 これは一つの家の中で食べなければならない。あなたはその肉を家の外に持ち出してはならない。またその骨を折ってはならない。

要約

御座の超越を味わう伝道が本当の伝道だ。

□序論_伝道以前に、先にフォーラムがなければならない。

これも祈りで礼拝だ。すべてが祈りで、礼拝だ。

□本論

1. 出エジプトの事件

ヨケベドという重要な人から出た人物がモーセー王宮から追い出されてイテロに出会うようになる。

ここで深いフォーラムが成り立って、モーセーアロンがともにパロ王の前に立ったのだ。

送り出さないから、神様が10の奇跡を起こされる。神様のみこころは変わらないから。

ここにヨシュアーカレブーラハブのような人物がいたのだ。

この祈りのフォーラムがあるべきだ。

1) 出エジプトが起きたのだ。

- 2) 荒野の道を通り過ぎる中に幕屋中心に、雲の柱で
- 3) 神様は荒野で奇跡を与えられる。
- 4) 三つの祭りという永遠のことを与えられる。
- 5) 永遠のことである契約の箱をくださった。

祈りと礼拝を分らないならば、この人たちが選択したことをただ一つも選択できない。
 祈りを分らないならば、考えるようになるから、私たちの考えではこれを選択できない。
 イエスを信じる人は祈りをたくさんしなければならぬ。考えを持ってはこれではできない。

2. 王政時代

ハンナ、エッサイのような重要な人々が正しい契約を悟るようになったのだ。
 サムエル-ダビデのような人物が出てくる。
 この流れを見て、祈りと礼拝を実際に味わった人がエリヤー-エリシャ-オバデヤであった。

このようなフォーラムが私たちに先になければならぬ。神様がみことばをどのように動かされ、私がここにいるかということだ。

- 1) ミツパ運動
- 2) カルメル山運動が起こる。
- 3) ホレブ山運動-すべてのメッセージをホレブ山ですべて与えられる。
- 4) このようにして出て行ったのがドタンの町運動だった。

私たちがこのように(本論 2 の四角の部分)準備するならば、4つの運動(本論 2)のように行くようになる。
 極限状況で神様の契約を選択するならば、神様は働かれるだろう(本論 1 番の四角の部分)。
 伝道以前にこれ(本論 1、本論 2 四角の部分)が重要だ。

3. 初代教会

世界最大の危機がイスラエル中心に起きた。
 そのときに起きた事件がカルバリの丘事件だ。
 この事件は預言された事件だ。
 このとき、復活されたキリストがオリーブ山で与えられたメッセージだ。
 使 2:1-13 この契約を握ってマルコの屋上の間に集まったのだ。
 使 11:19-30 より大きい困難がきた。
 そのときアンテオケ教会ができた。
 使 13:1-4 パウロを殺す特別チームが作られたとき、パウロは世界宣教に歩みを移すようになる。

これがみな祈りで、礼拝だ。聖日に集まるのはとても聖なる神様の計画が宣言される公礼拝だ。残りのことは、生きた礼拝だ。聖日にすることは心を集める一致協力祈りであるが、普段の祈りは生きた祈りだ。そのまま成就した。

- 1) マタ 28:16-20 あらゆる国の人々に
- 2) マコ 16:15-20 万民に
- 3) 使 1:8 地の果てまで

□結論

神様は必ず世界福音化されるので、しかたなく許されたのが戦争、強大国を通した奴隷制度だ。戦争と奴隷制度で世界化をさせずに、生きているまことの礼拝と祈りを通してできるということだ。

公礼拝(宣布)-このような人(本論 1-3 の四角の部分)が集まった場合に御座のこと、神様の聖なることが宣布される時間
 生きた礼拝(24)-「24」する祈り
 この二つがみな一つに集中すべき - ただ主なる神様!ただキリスト!

これが世界を変えるのだ。私たちは時代生かす伝道者で、巡礼者だ。これを握るべきだ。

<全文書き起こし翻訳>

伝道も私たちは御座の超越を味わう伝道が本当の伝道です。先に、特別に枠を一つ作ってみます。

□序論_フォーラム

みなさんが伝道する前に、まず先にフォーラムがなければならぬでしょう。これも祈りで、礼拝です。すべてが祈りで礼拝です、私たちは。

□本論

1. 出エジプトの事件

ヨケベデ、モーセーイテロ

どんなフォーラムからするのかを見ましょう。まず、その、ヨケベデという重要な人がいました。そこから生まれた人物がみなさんご存じのようにモーセです。このモーセは、みなさんがご存じのように、王宮から追い出されてイテロに会うようになります。

モーセーアロン、パロ王

ここで深いフォーラムが成り立ちながら、モーセとアロンがともにパロ王の前に立ちました。当然、王は送り出しません。

10の奇跡 ヨシユアーカレブーラハブ

それゆえ、神様が十の奇跡を起こされるのです。神様のみこころは変わることはありません。ここに、ヨシユアとカレブとラハブのような人物がいたのです。

この祈りのフォーラムがなければなりません。

1) 出エジプト

そうするから、みなさんがご存じのように、出エジプトが起こるのです。とても大きな事件が起こりました。

2) 幕屋

出エジプトが起こったから、荒野の道を行く中で、神様は幕屋中心に、雲の柱で...

さあ、この光景を一度見てくださいます。ここにあった、まず祈りとみことばフォーラムがあるならば、起こるのを見るようになります。

3) 荒野の奇跡

行く道に神様は当然、荒野で奇跡を与えられます。

4) 三つの祭り

その中で多くのことがあったのですが、三つの祭りを、永遠のことに与えられました。

5) 契約の箱

そして、永遠のことに与えられました。契約の箱です。こういう、とても大きなことが出エジプトで起こるのです。

△重要なことは、これ(出エジプト、幕屋、荒野の奇跡、三つの祭り、契約の箱)は、神様が行われたのですが、私たちが見なければならぬ部分が、これ(本論1前の部分)です。みなさんが祈りと礼拝を分らないならば、この人々(本論1前の部分の人々)が選択したこと、ただ一つも選択できません。そうでしょう。

もし、みなさんが正しい精神を持つ人ならば、祈りを分らないならば、考えをすることになるから、みなさん考えと私の考えでは、この選択(本論1前の部分の人々の選択)をすることはできません。それゆえ、イエスを信じない人々は、それでも考えをちょっとたくさんしなければならぬでしょう。イエスを信じる人は祈りをたくさんしなければならぬのです。とても大きな差があります。

考えをもっては、これ(本論1前の部分)はできないということです。いや、ただ子どもを隠しておいて、隠せる時まで隠して、何か殺されるときは殺されるのであって、どのようにヨケベデのように、このようなことをしますか。どのように、モーセが事件が起きたことまでは理解できるでしょうが、「パロ王の前に行く。それをイテロが理解した」一つもできないのです。

2. 王政時代

ハンナ、エッサイ、サムエルーダビデ

さあ、王政時代に起きたことを一度見てください。ハンナとエッサイのような重要な人々が正しい契約を悟るようになるのです。ですから、サムエルとダビデのような人物が出て来ます。

エリヤーエリシャーオバデヤ

この流れを見て、祈りと礼拝を実際に味わった人がエリヤとエリシャとオバデヤでした。その話です。

このようなフォーラムが私たちに、まず先になければなりません。伝道するときに、必ず記憶しなければなりません。神様がみことばをどのように動かされてきて、私がここにいるのかということです。

1) ミツパ運動

ですから、当然、ミツパ運動。私たちは後のことだけ度々話すのですが、起こるしかないでしょう。

2) カルメル山運動

カルメル山でみわざが起きました。

3) ホレブ山運動

必ず私たちになければならぬ運動、ホレブ山です。すべてのメッセージをホレブ山で、みなくさいました。

4) ドタンの町運動

このようにして出て行ったのが、ドタンの町運動だった、その話です。そのように見れば、難しいこともありません。私たちもこのように(本論2の四角の部分)準備するならば、このように(本論2-1)-4)できます。私たちも極限状況で死ぬことを恐れずに、神様の契約を選択するならば、神様は働かれるでしょう。

メッセージを聞く重職者みなさんでも、産業人でも、私たちの伝道弟子が必ず伝道以前に、これが(本論1-3)重要です。

3. 初代教会

世界最大危機

いよいよ初代教会です。世界最大危機がイスラエルに押し寄せます。イスラエル中心に。

カルバリの丘

そのとき起こった事件が「カルバリの丘事件」です。地球上に、このようなことはありません。カルバリの丘事件です。「イエスがキリストだ、違う」以前に、このカルバリの丘事件は預言された事件です。資料があるでしょう。

オリーブ山

このとき、復活されたキリストが、オリーブ山で与えられたメッセージです。

使 2:1-13

この契約を握ってマルコの屋上の間に集まるのです。

使 11:19-30

より大きな苦しみがありました。そのとき、アンテオケ教会ができました。

使 13:1-4

より大きい困難がありました。

アンテオケ教会できたから、もうパウロをつかまえて殺す特別チームが作られました。このとき、パウロは世界宣教という歩みに移るようになります。

これが(序論、本論)みな祈りであり、礼拝だということです。祈りと礼拝に対する概念を変えるべきです。

聖日に集まることは、とても聖なる神様の計画が宣布される公礼拝です。残りのことは生きた(living、活)礼拝です。

聖日にすることは、神様のみこころを、呼び掛けを、私たちの心を集める一致協力祈りですが、普段は、みなさん、生きた(living、活)祈りです。

1) マタ 28:16-20

そのまま成就されました。あらゆる国の人々に行ったのではないですか。

2) マコ 16:15-20

万民に。

3) 使 1:8

地の果てまで。

□結論

これがなぜ重要かという、必ずこれは出るからです。

戦争

神様は必ず世界福音化されるので、しかたなく許されたのが戦争です。

奴隷制度

しかたなく強大国を通した奴隷制度です。世界福音化、以前に世界化される道はこれしかありません。

礼拝、祈り

ところで、今日私たちは戦争と奴隷制度で世界化をさせずに、本当に生きている真の、礼拝と祈りを通してすることができる、ということです。

このときも、事實は、戦争が起こり、奴隷としていたときも、これ(序論、本論)という、祈りと礼拝が何か知っている人を通して起こりました。

公礼拝

公礼拝は話すまでもありません。話す必要もないです、これは。これはとてもすばらしい御座のことが宣布される時間です。こういう(序論、本論)人が集まった場合。

生きた(living、活)礼拝(24)

みなさんが「24」という祈りは、生きた(living、活)礼拝です。「24」という生きた(living、活)礼拝だということです。このような人々が集まる公礼拝は、神様の聖なることが宣布されるのです。この生きた(living、活)礼拝ということは「24」ということです。

一つ集中

この二つ(公礼拝、生きた礼拝)がみな一つに集中しなければなりません。ただ主!ただキリスト!この一つで、すべてです。なぜでしょうか。「私が何をやる」それもあります。ただ主!「気分が悪い」もあります。ただ主!失敗を少ししてもかまいません。ただ主!

これが世界を変えるのです。こういう時になりました、いまは。私たちが昔に方法を話して、その時もすべきですが、それは幼稚園生の話です。私たちは本当にこの時代を生かす神様の契約を持つ伝道者で、巡礼者です。

これを握らなければなりません。ですから、今年を終えながら、来年には本格的に必ず回復されると考えています。悟れなくて、できない障害物がとても多いので、その障害物をなくす資料を作ろうとしています。ほかのことはありません。正しくすればよいのにしないから。ただすれば良いのです。しないから、障害物をなくす資料が必要です。祈ります。

祈り

神様、私たちが伝道者と呼ばれた神様、この席に座っていることが世界福音化で、この席が御座の祝福の席で、この席

が時空超越のプラットフォームで、この席が 237 を生かす光を放つ貴重な現場になることを祈ります。イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン

直筆

전날
전날에 비해 1. 2. 3. RMC (음악회 현장) (24)
"보통의 조형물 두서너개 정도"
(종: 12:1-46)

1. 주일음악회 4번
1) (종: 11-12:46)
2) 성악회 구름기둥
3) 광야의 기차
4) 예절기
5) 연극 7개

2. 낭독시대
1) 미스비 운동 (상상 11:1-14)
2) 갈매산 운동 (상상 12:1-11)
3) 호명산 운동 (상상 13:1-21)
4) 도단성 운동 (상상 6:18-23)

3. 초대교회
1) 마 28:11-20
2) 마 16:11-20
3) 마 1:1-8. 11.